

**第6回渡良瀬遊水地エリア検討部会  
議事要旨**

**【概要】**

日時	令和元年5月10日（金）14:00～15:30
場所	栃木市藤岡遊水池会館 2階会議室
議事	(1)「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン（案）」について
配布資料	1. 議事次第 2. 出席者名簿 3. 出席者席配置図 4. 推進協議会規約・名簿 5. 検討部会規約・名簿 6. 渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン（案） 7. 渡良瀬遊水地ヨシ焼き&観光資源化の取り組み（参考配付）
出席者	【第6回渡良瀬遊水地エリア検討部会 配付資料「出席者名簿」のとおり】
会議風景	

**開会挨拶（利根川上流河川事務所三橋所長）**

- 本日は、渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会の目的を達成するための具体的な行動計画である『渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン』についてご審議いただく。
- 賑わいのある地域振興・経済活性化につながる、インバウンドを含めた遊水池周辺エリアの観光振興に役立つような議論をお願いしたい。

**青木議長挨拶**

- 若年層を対象とした観光資源への関心調査では、セイタカアワダチソウやヤナギ抜き取りの取組が上位に入るなど、体験への関心が高いことがわかった。
- 本日議論いただく行動計画を絵に描いた餅にせず、保全・再生と同時にワイズユース、交流・学習につなげるよう活発な議論をお願いしたい。

## 議事（１）「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成アクションプラン（案）」について

〈事務局より配布資料の説明（1-2 ページ；アクションプランの概要について）〉

- 民間参画は自然な流れとを感じるが実現可能性はどうか。  
→渡良瀬遊水地エリアの地理的特性を考慮して旅行者へヒアリングを行った結果、商品化への関心が表明されアクションプラン決定後に詳細を相談したいとの感触を得た。
- エコツアーの効果を次回の検討部会で検証する計画だがどのように評価するスキームか。検証・評価の方法を含めて検討するのか。  
→効果検証の方法まで今回のアクションプラン（案）に書き込めなかったが、実践するツーリズムの参加者アンケート、広告宣伝費、応募状況などのデータをベースに検証することを考えている。具体的な方法は次回の検討部会までに事務局で検討させていただきたい。
- 関東全体を見渡したとき、このエリアでは最初にコウノトリ定着が実現する可能性が高い。
- アクションプランや湿地再生事業がコウノトリの営巣環境構築を実現するロードマップが事務局から提示されると、個別のアクションが目標とする地域の賑わいにどうつながるのかを相対化しやすい。
- アクションプランの内容について、成果への不安もあるが、まずは動き出すという展開に意欲を感じる。実践した結果を見直して改善していく繰り返しで、違う展望も見えてくると思う。
- この会議でコウノトリの生息環境、採食環境づくりをきちんと議論することが重要。一時的にいなくなることもあるだろうが、長い目でそれらをシンボルとする多様な生きものが住める環境を考えていくものである。

〈事務局より配布資料の説明（3-5 ページ；プロジェクト『1. 拠点の活用』について）〉

- 拠点数は区切りとして 100 箇所を開始したが、増減（入替）には臨機に対応する
- 一つの拠点を訪れたときに次の関連する拠点にも足を運びたいような、拠点間のつながりの情報も提供できると良い。関連する拠点の案内を追記するなど工夫して、ツールを活用していきたい。
- 拠点ラリー案は一つの市町の全拠点を集めればその市町のイラストが完成、それを 10 セット揃えると全制覇となるイメージ。

〈事務局より配布資料の説明（6-8 ページ；プロジェクト『2. エコツアー』について）〉

- コウノトリの巣作りが体験メニューとして示されている。エリアへのコウノトリ定着が協議会の取り組み指標なので、その進捗をツアー参加者に示し、ツアーでの取組が進捗にどう貢献するのかをフィードバックできるとよい。
- 手作り巣塔の設置の目的としては参加体験の提供なのか、実際にコウノトリが営巣することを目指すのか。  
→コウノトリの生息を協議会の取組のシンボルにしている中で、意識付けにつながる体験活動の提供を想定する。
- コウノトリは大型の鳥なので、相当な重量に耐える構造でないと営巣場所として利用しない。その意味で竹と紐で手作りしたようなものは実際に使用することは考えにくい  
→コウノトリの大きさを体験する機会の提供も含めて、参加者の意識付けにつながる体験を想定す

る。蘇会員のアドバイスをいただきながら挑戦してみたい。

- 一日目の夜に野鳥の勉強会を行うのなら、次の日に観察会を持ってきた方が良い。午前中の方が鳥の動きも活発。  
→早朝の探鳥会というのも検討したい。
- 拠点は市町からの推薦に依るが、エコツアーでは市町を超えた関連に留意して検討されたい。
- エリアを俯瞰する、バルーン関係の体験も参加者から喜ばれるのではないか。  
→栃木市に熱気球クラブがあり、協力・連携することも検討したい。
- ポイントの説明は各市町で対応できるが、ツアーの全体をよく理解している全体ガイドが必要。  
→例えばダムツアーなどではマニアの方に全体の構築から協力いただいている。事務局として、マニュアル作成なども対応を考えており、会員各位には引き続きアイデアやアドバイスをいただきたい。
- 原案では、立ち寄り箇所が多すぎて（詰め込みすぎて）ストーリーが見えない。全体のつながりを上手く示すことで、エコツアーの期待感が高まり、誘導もうまくできると思う。ストーリーをしっかりと作って、立ち寄り箇所を絞れるといい。  
→原案では、各地域の魅力的な資源を色々と提示している。旅行会社の意見も踏まえて、絞り込んでいきたい。
- ジオパークなどでは、全体のストーリーに個別のコンテンツや専門性を提供する仕組みとして、ガイドを養成している。旅行会社も安心して信頼できるガイドを依頼でき、ガイドにも適正な謝金を支払いできる。行政の最初の投資として養成講座やガイドブックなどをお願いしたい。  
→ツアーガイド養成は重要と認識している。今回のエコツアーを試行する中で、必要性なども次回の検討部会で議論したい。

〈事務局より配布資料の説明（9-10 ページ；プロジェクト『3. 生きもの調査など』について）〉

- エリア全体での採食環境評価は重要な取り組みである。
- 多面的機能支払い交付金を受けている主体や土地改良区では、調査を実施しているところが多く、ノウハウがあると思われる。タイアップできれば、多様な活動主体による生きもの調査が実現できると思う。
- このアクションプランでは、地固めとしてまずは調査を実践することを意図している。実践の中から、次の長期のアクションプランの内容に活かしたい。
- 生きもの調査だけでなくコウノトリが実際にどこを利用しているかを把握することも必要。みんなでコウノトリを観察して採食行動を記録するなどの取組も必要。  
→今回の田んぼ生きもの調査は簡易なものなので、参加から理解者を広げていく呼び水の役割として期待したい。そのため、まずは実際に田んぼに行って体験してもらう人が増えること大事だが、その科学的な裏付けとして土地改良区、関東地整など関係各所と調整して現況把握をしていくことが重要。

〈事務局より配布資料の説明（11 ページ；関連組織との連携について）〉

- 「渡良瀬遊水地保全・利活用協議会」、「渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会」を始め、関係組織

の検討を串刺しにして、成果を共有していきたい。

- 本日の会議には、千代田町および明和町からも担当者が参加（傍聴）しており、利根大堰周辺エリアでの取組とも連携して相乗効果を出したい。
- 渡良瀬遊水地では湿地再生事業が進められてコウノトリの生息も安定しているので、環境の実態を調べてそれを進めるようにしていただきたい。また、思川などでも掘削等の事業を実施しており足並みをそろえていければより良い環境ができるだろう。

〈青木議長よりアクションプラン案についてその承認を諮った〉

- アクションプランについては全会一致で承認された。

#### その他事務連絡

- 本日の検討部会でアクションプランが全会一致で承認されたことについて、検討部会規約に基づき協議会へ報告する。
- アクションプランが決定したことから、各会員においては以下ご協力をお願いする
  - ・ラリーシートおよび拠点広報資料の記載内容の情報提供、拠点ラリーの実施
  - ・エコツアーにおける案内、講話、現地指導等の対応
  - ・田んぼの生きもの調査実施箇所の推薦、調査の実施 など
- 次回の検討部会はアクションプランの成果検証を主な議題として、次の通り開催する。
  - ・11月29日（金）14時から
  - ・栃木市藤岡遊水池会館 2階会議室

#### 閉会挨拶（利根川上流河川事務所石田副所長）

- アクションプランの策定により、渡良瀬遊水地エリアでの夢が広がっていることを感じている。地域活性化のために行政としてできることを進めていき、アクションプランが地域活性化のプランとなっていけばよいと思う。

以上